

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2591200049		
法人名	医療法人社団真下胃腸科医院		
事業所名	グループホームりょうせんの郷 ユニット悠		
所在地	滋賀県栗東市縹5丁目15番38号		
自己評価作成日	令和5年1月20日	評価結果市町村受理日	令和5年3月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 滋賀県介護福祉士会		
所在地	滋賀県草津市笠山七丁目8番138号 滋賀県立長寿社会福祉センター内		
訪問調査日	令和5年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成24年3月に開設以来10周年を迎えた。その人らしい生活を送っていただくために、「その人を知る」事に重きをおいてケアにあたり、スタッフも定着してきた。ご家族とのコミュニケーションを大切にし、ご本人はもとより、ご家族の思いを出来る限り希望に沿うように努めている。また栗東市から依頼を受け、法人全体で「認知症カフェ」事業に取り組んでいる。同法人である真下胃腸科医院と医療連携を行い、入居者の健康管理に努めている。看取り介護も行っており、開設以来10名の利用者様を看取らせていただいた。現在はコロナウイルス感染予防対策のためご家族との面会や外出は自粛いただいている。利用者様の状態をお伝えするために日常の様子を写真にしてご家族へ郵送したり、電話の取り次を随時行っている。

一階部分は同法人のデイサービスが運営され、2階には2ユニットの「グループホームりょうせんの郷」がある。コロナ禍で自治会の行事への参加や買い物外出等が自粛となり外部との交流が少なくなったのが残念であるが、事業所内で2ユニット合同で、月毎のイベント(新年会・節分・運動会・七夕・クリスマス・訪問時は、ひな人形の飾りつけ中であつた)を計画し、利用者と一緒に準備を行い、当日は季節の食事で楽しみ、その様子を写真にして「りょうせんの郷新聞」で家族等に伝えている。スタッフは、日々の暮らしの中で利用者一人ひとりの思いや出来る力を大切にした自立(律)の支援に努めている。身体変化があつた場合は、医療と連携し、本人・家族の意向を都度確認しながら話し合い支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果ユニット雅

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議で4つの理念を全員で唱和し、理念の共有を行い実践に努めている。また理念を事業所の目につくところに掲示している。	その人らしく支援できているか、穏やかな家庭的なケアが提供できているかを振り返り確認して実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。	以前は、家族や地域の方を招いて、夏祭りやボランティアグループの方と交流があったがコロナ禍で自粛となっている。中学生の体験学習は再開の予定である。現在は、近くの公園に少人数で出かけ近隣の人と挨拶を交わす程度である。	コロナ禍は、地域とのつながりを考える時間と考え話し合えばいいですね。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	栗東西中学校校区での「認知症カフェ」事業に法人全体で取り組んでいる			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度はコロナ感染予防対策のため、会議を開催することなく、資料の送付のみとなったため、話し合う場がなかった	今年度ほぼ書面会議となり事業所の現状や取り組みを運営推進会議のメンバーに持参及び郵送であった。意見交換とまでは至らなかった。	地域や行政・家族等からの意見や提案を出していただける大切な機会です。事業所の悩みや課題を投げかけて見てはいかがでしょうか。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議が開催できなかったため、本年度は連携することができなかった。コロナワクチン接種についての質問はさせていた	運営推進会議で事業所の現状や取り組みを伝えている。必要時は、電話やメールでも相談できる関係が築かれている。市より認知症カフェ開催の協力依頼をされコロナ禍で中止となっていたが再開時期を模索している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	離設等の事例があり、玄関は施錠している。全ご家族へ再度施錠についてのご意見をいただくべく、アンケートを実施した。3カ所のドアの内、1カ所は常時開錠している。身体拘束をしないケアの研修には、職員を参加させ、勉強会で伝達している。	法人全体で年2回、身体拘束をしないケアについて文書化した書類を回覧しスピーチロックも含めて正しい理解の確認をしている。外出傾向のある方に対しては、時間をかけて本人の思いを傾聴し、家族の協力を得て電話で話してもらったり、一緒に歩く等をして穏やかな対応を共有している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が外部の研修を受講できていない。法人全体の研修は年1回開催しており参加を促している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用されている方が3名おられるため、制度の内容等職員会議の場で学ぶ機会を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要事項説明書に沿って説明し、その後契約内容も説明し納得いただいた上で契約となる。また質問事項等にはお答えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。ご家族とのコミュニケーションをとり、意見をいただくようにしている。年1回家族会を予定しているが、昨年はコロナ感染予防のため開催できなかった。	個々に管理者が家族等へ電話で利用者の様子を伝え感想や意見を聞いている。感染拡大前は、クリスマス会に家族に来てもらい話し合う機会があった。様子を見て再開したいと考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々のケアの中で管理者が職員の意見を聞く機会を設けている。また事務部長との個人面談を実施し職員個々の意見を聞く場も設けている。	会議でも日々のカンファレンスでも勤務年数に関わらずに意見や提案は出来ていると職員より聞きとった。管理者は、各職員の意見を聞き必要時は法人まで伝え検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境について、意見が出たところは改善している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を全職員が見る場所へ掲示し希望を募っている。法人内主催の研修も行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	滋賀県南部介護サービス事業者協議会に加入し、情報交換を行っている。また法人内にグループホームがもう1カ所あるので随時意見交換をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所決定の段階で利用者様の情報収集に努めている。ご本人様やご家族様より希望事項や現状を詳しくお聞きしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に、ご家族の思いを聞いている。初回ケアプラン作成時にも説明し要望をお聞きしプランに反映させている。。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時にしっかりと話し合い何を必要とされているか、考える。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、洗い物、掃除などを職員と入居者様が出来ることは一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来所時に情報交換を行ったり、3か月に一度ケアプランの見直しの際、利用者様の様子を書面でお伝えしている。外出等ご家族が行えることは提案し、出来る範囲で行ってもらっている。(コロナ感染予防対策)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人と交流が持てるように、面会など声掛けを行っている。 近所への買い物などの外出を積極的に行っている。(現在休止中)	コロナ禍で自粛されているが、以前は利用者の居室で話したりする関係性の方が訪問されたり、デイサービスの馴染みの方との交流があった。現在は電話の取次で関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月カンファレンスを開催し、入居者同士の関係についても話し対応している。 職員が間に入り、関係構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も希望があれば必要に応じて連絡と相談は行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員皆で、利用者様毎に3か月に一度カンファレンスを行い、日々の本人の言動や、表情などの情報を記録に細かく残し、職員間で情報の共有をしている。	利用者1人ひとりの言動から思いを汲み取り、介護日誌に記録して職員間でカンファレンスし共有して支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族の協力を得て、情報をもらっている。入居前に介護サービスを利用されていた方は前担当介護支援専門員に情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の利用者様の様子を介護記録に記入し、申し送りノート等により情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月毎にカンファレンスを行い、ケアプランの見直し後、家族に説明と同意のサインをもらっている。	本人・家族の思いや希望を来訪時や電話で聞いて介護計画を作成、モニタリングは、ケアマネージャーを中心に介護記録を参照して職員間で行っている。	モニタリングや再アセスメントについても本人・家族等と検証することで新たな課題が見つかるのではないかと考えられます検討されてはいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	令和2年1月1日よりケース記録の様式を変更し記録しやすくした。勤務交代時の申し送り事項をノートに記入し、全職員が情報の共有と把握を行えるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて福祉用具導入の相談や購入を、他の事業所と連携して行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	三味線、ハンドベル、フラダンス、傾聴のボランティア様に來ていただいている。訪問美容室を利用したり近隣のスーパーへ希望の品物の購入するため職員が同行している。 (現在休止中)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の説明をし、納得をいただいてから当法入と医療連携を結んでいる。月2回の往診をうけ、体調不良の場合は緊急往診もあり、体調管理には注意している。	本人・家族納得のうえ事業所の提携医の往診を利用されている。専門医等には以前からのかかりつけ医に基本は家族同行で通院される方もいる。診療情報は、関係機関で共有され健康管理されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の医院の看護師と常に連携、相談を行っている。緊急時の対応も可能。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要時、連携医院と情報交換を行っている。入院時には施設での情報を提供し、退院時には、必ず病院での退院に向けたカンファレンスにご家族と共に参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	平成26年度からの新規利用者様には入所契約と同時に重度化した場合における指針を説明している。それ以前に入所された方には順次説明をしていく。	重度化の傾向にある場合は、医師の説明と共に本人・家族の意向を再度確認しながら話し合い支援に努めている。体調の変化があった場合は、看護師や管理者が駆けつける体制となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会で学ぶ場を設けている。緊急対応の勉強会も行っている。緊急時のマニュアルを作成し、緊急連絡網も整備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防避難訓練を行っている。車椅子対応の利用者様が増加し、施設が2階にあるため、まずはベランダへ出て一時避難を徹底して行っている。	定期的に避難訓練が行われている。実際に階段を下りる訓練や車椅子利用の方の避難訓練が行われている。非常食や必要物品の備えもある。	様々な災害を想定した対策について地域も巻き込んで話し合えるといいですね。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛け、介護方法は尊厳のある対応をするよう周知している。職員会議においても、尊厳をもった声掛けを徹底している。個人情報事務所の施錠できるところで保管している。	職員は尊厳ある対応を心掛けており、日々のケアの中で気になった時にはその場で注意し、対応を振り返っている。重度の方もいるが、介助時には行動の声掛けを行うなど基本的な対応も確認しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えにはできる範囲で対応している。買いたい物や、食べたい物は、随時一緒に買い物に行くようにしている。(現在休止中)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の要望に答えるように努めている。食事の時間など出来る範囲で本人の要望に沿って行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容や身だしなみが大切な事は会議などで随時指導している。毎月訪問美容業者が来られるので随時ヘアカット、ヘアカラーをしてもらっている。選べる方には着用する衣類もご自身で選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆様毎食残される事なくほぼ完食されている。昼食は職員も同じものをいただいている。可能な方へは、下膳等をしていただいている。	栄養管理され、食べやすく調理された業務委託の食事を、キッチンで温め、陶器の食器に盛り付け提供している。ソフト食の提供もあり、おせちなどの行事食では見た目も同じように盛り付けられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養士によってバランスのとれた献立を考えている。嗜好により食べられない物は代替品で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを必ず実施している。介助が必要な方には介助を行っている。必要時、連携の歯科医と相談している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用して排泄パターンを把握し、本人に合った時間に誘導を行うなどの工夫をして清潔の保持に努めている。	自立の方は少ないが、排泄間隔を見極め、適時声掛けを行い失禁を減らしている。重度の方はベッド上での交換を行っており、排泄チェック表を利用し、随時おむつの見直しを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取を促し、水分摂取量も把握している。排泄確認も実施し、便秘が考えられる場合は主治医に相談のもと、軟下剤等を処方してもらい便秘にならない様注意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各人週3回の入浴日を設けている。ひとり30分程度の時間を設けており、ゆっくりと入浴いただいている。浴槽へ跨げない方はシャワー浴と足浴を行っている。	気分が乗らない時には時間や日にちを変えて誘い、脱衣所は暖かく整え、時には入浴剤やゆず湯を楽しむなどして、気持ちよく入浴できるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で過ごす方は自由に行ってもらっている。必要者には、安楽な体位で入眠できるように検討し実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服薬している薬の最新情報をファイルしており、職員は薬品名、効能、副作用について知ることができるようにしている。服薬管理は職員が行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式のアセスメント用紙を使用し、カンファレンスごとに本人についての思いや生活の情報の把握に努めている。役割活動や、個人で楽しめることも提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	春から秋にかけて様々な外出を企画し実施している。個人の買い物なども本人の意向に沿って行っている。その他に、散歩や施設の花壇の水やり行い、外出の機会を設けている。ご家族にもお願いし、外出していただいている。(現在休止中)	近隣は住宅地であるが、大きな桜の花があったり、公園があり、積極的に散歩に出て楽しんでいる。現在はコロナ禍で、家族との外出やドライブなどできない状況があるが、条件が整い次第支援していきたいとのことであった。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本はご家族よりお預かりしたおこづかいを施設金庫で管理している。一部ご自身で財布を持参されている方もおられるが、自己管理をお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎを行っている。携帯電話所持の入居者の援助も行っている。現在毎日電話を取り次いでいる利用者様がおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔保持の為に毎日掃除を行い、明るく暖かな印象が持てるようにしている。安定した室温であるために季節感がわかり辛くなるため、室内飾りや壁面画等で工夫をしている。	大きな窓からの採光があり、明るく清潔な空間で、自分のペースで過ごされている。皆で作った季節の飾りや、外出時の写真が乗っている新聞などが張られ、会話のきっかけにもなっていると聞く。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを配置しくつろげるスペースの確保を行っている。天気の良い日はテラスで過ごすなどの工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お仏壇を置いたり、カーペットを敷いたり、馴染みの家具を持ち込んでもらっている。壁に写真を貼るなど自由に使ってもらっている。	入居時に家族に持参してほしいものを提示し、その他馴染みのもの、本人が落ち着くものを持ってきてもらうよう依頼している。家族の写真や自身の作品などが飾られ、落ち着いて居心地よく過ごせる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎日、食事のメニューをホワイトボードへ記入したり、日めくりカレンダーなどで日にちなどが分かるように提示している。また自室がわかるように表札を掲げる等の工夫をしている。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議を活かした取り組みができていない	2023年4月からは会議が開催できるよう取り組みたい。またその中で事業所の課題を投げかけ意見を頂きたい。	コロナ禍において、まずは会議が開催できるよう取り組みたい。会議の中で地域や行政の方々の意見を伺いたい。	1年
2	2	コロナ禍であることが大きな要因であるが、地域へ出かけたり、地域とのつながりをみつけることが出来なかった	地域の行事に参加していきたい	利用者様と共に出来る限り外へ出向き交流をもつようにしたい。	1年
3	13	上記と同じく、地域との繋がりが希薄となっているため、災害時に援助頂ける工夫が必要である	災害発生時等、地域、近隣住民の方々に援助いただけるよう日頃から、関わりを持ちたい。	地域の避難訓練に参加させていただけるようにしたい。	1年
4	10	ケアカンファレンス開催時、ご本人やご家族の参加要請は今まで行ってこなかったため、カンファレンスは職員のみで行っていた	ご家族へ連絡し、カンファレンスへ参加いただくようお願いしたい。	ご家族へ事前にカンファレンスの日程を連絡し参加の有無を尋ねたい。	1年

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

3 サービス評価の実施と活用状況

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		
実施段階		取 り 組 ん だ 内 容 (↓ 該当するものすべてに○印)
1	サービス評価の事前準備	☐ ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		☐ ②利用者へサービス評価について説明した
		☒ ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		☐ ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した（報告予定）
		☐ ⑤その他（ ）
2	自己評価の実施	☐ ①自己評価を職員全員が実施した
		☐ ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		☒ ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		☐ ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		☐ ⑤その他（ ）
3	外部評価（訪問調査当日）	☐ ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		☐ ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		☒ ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		☐ ④その他（ ）
4	評価結果（自己評価、外部評価）の公開	☐ ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		☐ ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		☐ ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		☒ ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った（予定）
		☐ ⑤その他（ ）
5	サービス評価の活用	☐ ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		☐ ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した（する）
		☐ ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した（する）
		☒ ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ（取り組む）
		☐ ⑤その他（ ）